



9月の家庭教育月間目標



じぶんのことはじぶんでしよう!

～身の回りの整理整頓など、自分でしようとする気持ちを大切に、自立心を育みましょう～

子どもが2、3歳頃、何でも自分でしたがりが、大人は少し困らされたという経験はありませんか。この時期、子どもは今まで家族などにしてもらっていた身の回りのことに少しずつ挑戦したがるようになります。何でも「自分で」と言って聞かないこの時期は、第一反抗期で、子どもの「自立心」の芽生える時です。大人にとっては手を焼くことも多い時期ですが、子どもが「何でも自分でやりたい!」という気持ちにあふれているこの時こそ、大人は一步下がって見守り、うまくできなくても自分でできたという達成感や満足感を十分に味わわせましょう。この時期に育んだ、やればできるという気持ちは「生きる力」となり、将来の子どもの「自立」へとつながっていきます。

ステップアップ!

子どもの発達段階に合わせて、幼児期は、まずは身の回りのことから、児童期から思春期にかけては、心身の健康や生活リズムなどの管理も自分でできるように習慣を付けていきましょう。

身の回りのこと

- ・服を自分で着たり脱いだりしよう。
- ・脱いだ服はきちんとたたもう。
- ・使った物は自分で片付けよう。
- ・食べた後の食器は、自分で下げよう。
- ・次の日の準備は自分でしよう。



健康のこと

- ・手洗い、うがいなどをきちんとしよう。
- ・早寝早起き、規則正しい食事での体の調子を整えよう。
- ・運動をして体を鍛えよう。
- ・体の調子が悪い時、気持ちが少し疲れた時は、大人にきちんと伝えよう。

時間などのこと

- ・朝は自分で起きよう。
- ・1日の予定は自分できちんと把握し、行動しよう。
- ・スマホやゲームを使う時間や、おこづかいの使い方について、家族と相談して自分で決めてみよう。



発達人はそれぞれです。子どもの成長に合わせて、その時期できることを家庭で考えましょう。

子どもは、幼児期、児童期、思春期と成長するに従って、自分でできることが増えていきます。その時、子どもは、自分で考え、工夫し、行動しようとし、大人は、子どもの努力を認め、励まし、少しずつ手を貸すことや口を出すことを減らしていきましょう。

子どもは成功と失敗を繰り返しながら少しずつ「生きる力」を身に付け「自立」していきます。大人は、子どもの姿を温かく見守り、子どもが困った時にはいつでも安心して戻れる居場所でありたいものです。

